3　年間指導計画･月案･週案･日案のつくり方

指導計画とは

保育は、幼児の生活を尊重して、幼児の主体的な活動を展開することが基本です。

しかし、幼児の主体性を尊重するということは、好きなように、ただ遊ばせておくということではありません。教師は、子どもの育ちに目標をもって、見通しをたてて保育を進めていくのです。

前節でも述べたように、教育課程は、その幼稚園の教育目標を達成するために教育内容を組織し、幼稚園全体で取り組むために、全教育期間を見通して配列した教育計画です。これに対して指導計画は、教育課程の目標を具体的にした視点から、幼児がいきいきと生活し、よりよく成長していくためには、「どの時期に」「どのような活動をしていったらよいか」ということを明らかにしていく指導の計画です。保育がその場しのぎにならないように、幼児の興味や関心、生活や遊びへの取り組み、教師や友達とのかかわりなど、子どもの発達を理解した上で、一人一人の幼児にふさわしい経験や体験を考えて、幼児の発達の時期や学年に即して指導計画が立てられます。

教育課程を具体化した「ねらい」や「内容」の設定、「ねらい」や「内容」を達成するための活動を可能なものにしていく環境の構成、活動の展開を望ましい方向に導いていく教師の援助、といったことなどを明確にしながら、教師は計画を立てていくのです。

1　指導計画の種類

指導計画には、どのような目標を持って、どのように指導していったらよいかを、1年、1ヵ月の期間を通して計画した長期の指導計画と、1週間、1日の単位で計画した短期の指導計画があります。

子どもに「体験させたいこと(＝活動の内容)」、「それを通して育てたい力(＝内容のねらい)」、「そのために何を用意するのか(＝環境の構成)」などを、それぞれの指導計画の単位に即して、具体的に配列していきます。

長期の指導計画

- **○年間計画：4月～翌年の3月までの1年間の生活を見通して立てる指導案**
  ※前節末の資料1･2･3参照
- **○月案：年間計画を具体化するために、1ヵ月の生活を見通して立てる指導案**
  ※資料4参照

短期の指導計画

- **○週案：月案実施のために、継続性を考えながら 1 週間を見通して活動を具体化して立てる指導案**
  ※資料 5 参照
- **○日案：その日の保育をどのように展開するのか、1 日の子どもの生活時間を見通して細かく立てる指導案**
  ※資料 6 参照

指導計画は、あくまでも「計画案」です。

計画にしばられて、子どもの実態とかけ離れた保育では、子どもの発達を援助していくことにはなりません。教師は、子どもの興味や関心の広がり、生活や遊びへの取り組み方や友達や教師とのかかわり方の変容、天気や寒暖といった自然の変化などに敏感になって、計画の修正や変更を随時、柔軟に行っていくことも重要です。

2　長期の指導計画、短期の指導計画の作成における共通的な留意点

(1) 子どもの実態の把握(子どもの発達の理解)

まず大切なことは、教育の対象である子どもについて理解することです。

その子どもたちがどのような家庭で育ってきたのか、いま、どのような発達の状態（段階）にあるのか、何に興味や関心をもっているのか、生活や遊びへの取り組みはどうか、教師や友達とはどのようなかかわり方をしているのか、などといったことから、一人一人の子どもを理解していきます。この理解にいたる道筋の一つは、発達心理学や幼児心理学といった学問的見地から、平均的で一般的な幼児の姿を学び、その知見に基づいて、対象の幼児を理解していくのです。もう一つは、クラス全体という大きな流れの中で、子どもの発達の姿を個別的にとらえて、そこでの生活の仕方に見られる子どもの姿を理解するという、実践的な一人一人の子どもの理解です。

(2)「ねらい」と「内容」の明確化

「ねらい」は、幼稚園の教育期間を通して身につけていくことが望まれる、心情・意欲・態度です。

「内容」は、ねらいを達成するために指導していく事柄で、具体的な活動は勿論のこと、活動を通して体験される、達成感や成就感、満足感や充実感、などといった内面的なことも含まれています。

(3) 保育環境の構成

保育環境の構成とは、「ねらい」や「内容」を明らかにした後で、どのような環境を準備していくのかということです。子どもたちは、身の回りにある環境との相互作用のなかで生活を展開し、発達し、成長していきます。保育を進めるに際して構成される環境は、「安全で安心できる環境」「発達に応じた環境」「興味や欲求に応じた環境」「課題性をもつ環境」などがあります。教師は適時このような環境を組み合わせて、子どもが自分からかかわっていきたくなるような環境を構成していくのです。

3　長期の指導計画作成における留意点

(1) 年間計画

年間の指導計画は、その幼稚園の教育課程に沿いつつ、1 年間の生活を見通して、具体的に立てられます。その際、まず配慮することは、クラスの人数、男女比、誕生月の構成などから、興味・関心のあり方などを踏まえて、子どもの実態をとらえることです。次に、幼稚園生活の節目となる行事の位置づけです。行事に追われて、行事のために保育が流されないように位置づけていくことが大切です。さらに、日本の季節の変化である四季について配慮が必要です。子どもたちが自然と共生していくためにも、その季節の変化を受けとめ、豊かな感性が育つような保育計画が期待されるのです。

(2) 月 案　※資料 4 参照

日本の学年暦は、4 月に始まり、3 月に終わります。年間の指導計画に基づきながら、月を単位として１ヵ月の生活を見通して具体的に計画がたてられます。月案の作成は、季節からとらえたその月の様子や行事、子どもの成長の姿、生活の変化などを考慮しながら立てられます。

4　短期の指導計画作成における留意点

(1) 週 案　※資料 5 参照

週案は、月案実施のために、子どもの生活の継続性を考えながら 1 週間を見通して活動を具体化して立てる指導案です。一般的に日常生活は、1 週間という流れでとらえられますので、子どもの生活単位として 1 週間の生活を継続的な視点をもって構成していきます。週案はかなり具体的で実践的でもあります。

(2) 日 案　※資料 6 参照

子どもの生活の基本単位は 1 日です。朝、登園してから降園するまでの 1 日の生活が楽しく充実したものとなるように、幼児の活動を予想しつつ、環境を構成し、指導の方法を考えながら作成していきます。その日の保育をどのように展開するのか、１日の子どもの生活時間を見通して細かく立てる指導案で、もっとも実践的で具体的な指導計画です。

指導計画の作成形式は、定型のものがあるわけではありません。幼稚園で共通にしているところもありますが､基本的には､保育者の責任と工夫において作成されるのです。また、保育実践を重ねてきて、幼児の姿や環境の構成、指導において配慮することなどが容易に考えられるようになると、週案と日案を一緒にした「週日案（※**資料 7 参照**）」を作成することもあります。

5　応用またはヒント

・ その目標を達成するために、どのように環境を整え、教材や活動を準備するのかは、決まっているわけではありません。教師の発想を豊かにして、いまある環境を整え、手に入る教材の利用方法や活動の仕方、展開への援助など、いろいろと工夫してみましょう。
・ 計画した通りに子どもが活動するとは限りません。時間の経過とともに、また経験を重ねてきたことで、子どもはどんどん成長、変化してゆきます。子どもの姿をよくみて、いつでも子どもの姿に合わせた計画に修正していくことが大切です。
・ 子どもにとって身近で親しみやすい活動を展開していくことが、子どもが主体性を発揮して、自発的に、いきいきとして活動に取り組むことにつながります。この点を踏まえて、子どもに親しみのある、生活の実態に即した展開や援助の仕方を考えていきましょう。
・ 四季の移り変わりがある日本でも、北の北海道と南の沖縄では大きく違います。それぞれの地域や国の文化、自然環境、慣れ親しんでいる伝統や風習を出来るだけ取り入れ、またそれらを軸にしながら、指導計画を作成していくことは、その地域やその国の子どもにとって、魅力ある教育活動になることでしょう。

資料４

〔月 案〕

組　　月　　**担任：**

長期のねらい： ※この月をふくむ学期や期の「ねらい」を記入する		**月のねらい：** ※この月の「ねらい」を記入する
前月の子どもの姿（実態） ※前月の子どもの実態を、様々な視点から捉えて記述する	**子どもが経験する内容及び活動** ※子どもに経験して欲しい事柄や、経験可能な活動内容を記述する	**環境の構成と指導上の配慮** ※子どもが経験していくために必要な環境の構成や、指導に当たって配慮することを記述する

資料５

〔 週 案 〕

組　　月第　　週　　日(月)　～　　日(金)　　**担任：**

前週の子どもの実態： ※前週の子どもの姿を記述する	**今週のねらい：** ※前週の実態から、今週の活動を通して、子どもの中で育って欲しい「心情・意欲・態度」などを具体的に記述する
内容	※「ねらい」を達成するために体験して欲しい事柄や、活動を記述する
環境	※活動が可能になるような環境の構成や、再構成を記述する
幼児の活動	※前週の子どもの実態から捉えて計画した、具体的な幼児の活動を記述する
指導のポイント	※活動を展開していく時の具体的な指導方法や、一人一人の子どもに対する教師の働きかけ方および指導に当たって留意し、配慮していくことなどを記述する

〔日 案〕

資料6

4歳児・チューリップ組　23名(男児12 ／女児11)　　**担任：佐藤あい子**

5月15日(水)　：　晴れ

ねらい：・様々な楽器に触れて、音の違いやリズムを感じ取る　※この日のねらいを記述する。
・みんなで一緒に表現したり、楽器で遊んだりする楽しさを味わう

内容：いろいろな楽器に触れて、音楽に合わせて音をならしながら、音の違いを知る
活動：いろいろな楽器を経験しながら、みんなで一緒に簡単な合奏をする
※この日の内容や活動を、具体的な子どもの姿で記述する。

時間	子どもの姿と環境の構成	教師の指導(援助)	指導上の留意点
9:00	◇登園する ・先生や友達と挨拶を交わす ◇部屋で所持品の始末をする ・タオルやコップを出し、連絡帳に出席シールを貼り、かばんと帽子をロッカーにしまう ◇好きな遊びをする ・保育室(製作、ごっこ遊び、積木、ブロックなど) ・園庭(サッカー、鬼ごっこ、ブランコ、滑り台、ジャングルジム、砂場、鉄棒など)	◇保護者や子どもに明るく挨拶すると共に、子ども同士の挨拶を促す ◇一人一人の子どもの所持品の始末の仕方に気を配る ・出席シールを貼る位置に戸惑っている子どもには助言をする ◇それぞれの遊びを把握しながら、怪我のないように気を配る ・遊びが展開しやすいような環境の構成を考えて援助する	◇声をかけながら、子どもの心身の状態を把握する ◇所持品を出し忘れている子どもには声をかけて気づかせ、自分でやるよう促す ・本日の日付を子どもに分かりやすいように提示しておく ◇個々の子どもの遊びへの取り組み方や子どもの動線を予測しながら安全を確認していく ・遊びに取り組みにくい子どもや、戸惑っている子どもに配慮する
10:00	◇片付けをする ・遊んでいた遊具をしまう ・うがい、手洗いをし、排泄をすませる	◇片付けも自分たちの生活の一部であることを知らせる ・教師も一緒になって、遊具をもとあった所に収めたり、しまったりしながら、片付け方を指導する	◇活動の後には片付けがあることを実感できるようにする ・片づけをすることで、気持ちよく次の活動が気持ちよくできることを感じとらせる
10:20	◇集まる ・みんなで朝の挨拶をする ・出席の確認をうける ・歌を歌う「ちょうちょう」 「きらきら星」	◇椅子を持ってきて半円になって座るように指示する ・名前を呼びながら出席をとる ・カセットテープの伴奏に合わせて皆で歌を歌う	◇名前を呼ばれたら、はっきりと返事をするよう促す ・合奏をする時にリズムの取りやすい歌を選んで用意しておく
10:40	◇楽器(すず、カスタネット、タンバリン)で遊ぶ ・楽器についての話をきく ・使ってみたい楽器を取ってきて、自由に鳴らしてみる ・「ちょうちょう」「きらきら星」を歌いながら、曲に合わせて楽器を鳴らす ・楽器ごとにまとまるように、席を移動する ・楽器別に一節ずつ区切って鳴らしてみる ・曲に合わせて、みんなで合奏	◇楽器を取り出しやすいように、子ども達の前に楽器の箱を出す ・楽器を子どもに示しながら、楽器の名前や使い方の説明をする ・使ってみたい楽器を取りにきて、自由に音を出させてみる ・曲を流して、歌いながら楽器を鳴らしてみることを提案する ・同じ楽器が集まるように、座る場所を示して移動させる ・楽器別に一節ずつ区切って鳴らしてみることを提案する ・楽器ごとに指示をだし、合奏になる	◇予め、楽器別に箱に入れておく ・それぞれの楽器は、同数か多目に用意しておく ・勝手に音を出すだけでは、ただ騒がしいだけだと気づかせる ・勝手に音を出し合うことと、曲に合わせて楽器を鳴らすことの違いに気づかせる ・ゆったりと座るように配慮する ・他の楽器と交互に一節ずつ音を出し合って、音の違いに気づかせるようにする ・楽器ごとに、鳴らすところを手で

	をする ・楽器を椅子の上においてから、違った楽器のところに行き、再び合奏をする	ように一節ずつ鳴らす ・違う楽器にとり変えて、再び合奏をすることを提案する	指し示しながら進める ・違う楽器を体験しながら、みんなで合奏する楽しさを感じとらせていく
	◇楽器ごとに同じ箱に入れて片付ける	◇扱いに気をつけながら、楽器別の箱に入れるように指示する	◇子どもが片付けやすいように、楽器の箱を真ん中に出す
11:10	◇みんなで机を出して、椅子を入れる。	◇グループごとにみんなで机を出し椅子を置くことを伝える	◇机を持つ人数や持ち方について確認していく
11:20	◇お弁当の用意をする ・トイレにいく ・手洗い、うがいをする ・かばんを持ってくる ・お弁当とコップをだす	◇トイレ、手洗い、うがいを済ませるように伝える ・お茶を持ってきて用意しておく ・お弁当を出し終えたら、コップにお茶を注いでいく	◇それぞれの手洗いやうがいの仕方を把握していく ・お弁当箱を出すときに落とさないようにすることを伝える ・コップの位置に注意して入れる
11:40	◇「いただきます」の挨拶をして、お弁当を食べる ・終わった子どもは、お弁当箱やコップを片付けて、かばんをしまい室内で静かに遊ぶ	◇当番の子どもを前にだし「いただきましょう」の声を掛けさせる ・グループごとに回りながら声をかけ楽しく食べられるようにする ・終わった子どもには室内で静かに遊ぶことを伝える	◇みんなが揃うのを待っている間ふざけないように気を配る ・ゆっくりと楽しく食べられるように配慮する ・食べている子どもがあせらないように気を配る
12:40	◇お弁当後の片づけをする ・机の上と椅子を片付ける ◇好きな遊びをする ・保育室(絵本、お絵かき、製作、ごっこ遊び、積木、ブロックなど) ・園庭(サッカー、鬼ごっこ、ブランコ、滑り台、ジャングルジム、砂場、鉄棒など)	◇グループのみんなで机を運び、椅子を片付ける ◇好きなところに行って遊んで良いことを伝える ・子どもの遊びに入って一緒に遊んだり、他の子どもの遊びの様子を見たり、援助したりする ・遊びに足りない遊具は出していく	◇机を持つ位置や運ぶ速さに注意する ◇保育室や園庭など、好きな場所で友達と十分に満足して遊べるように、時間的配分を考えておく ・危険な遊び方をしているときには注意する
13:30	◇片付ける ◇帰りの準備をする ・排泄、手洗い、うがいをして、タオルと連絡帳をかばんにしまい、かばんと帽子を身に着けて椅子に座る	◇片付けをみんなに知らせる ◇帰りの支度をすることを告げる ・排泄、手洗いをすませるよう促す ・タオルや連絡帳をしまい、かばんと帽子を身に着けて椅子に座るよう指示する	◇片付けの時間を十分とる ◇前もって椅子を半円に並べておく ・忘れている子には声をかけ、しまい忘れに自分で確認して気付かせていく
	◇　絵本「月夜の音楽会」を見る	◇絵本「月夜の音楽会」をよむ	◇楽器遊びにつながる絵本を、あらかじめ用意しておく
	◇「クラリネットをこわしちゃった」の歌を聞く ・教師の真似をしながら、みんなで一緒に歌ってみる	◇教師が「クラリネットをこわしちゃった」の歌を歌って聞かせる ・教師について一緒に歌ってみることを提案し、再び歌う	◇はっきりと歌って聞かせる ・間違えても気にせずに、教師について歌ってみるように促す
13:50	◇帰りの挨拶をする ・みんなで元気に、「さようなら」の挨拶をする	◇明日の当番の確認と、帰りの挨拶をするために、当番の子どもを前に呼び出す	◇明日に期待がもてるような言葉をかけて終わるようにする
14:00	◇降園する ・呼ばれたグループ順に帰る	◇混乱しないように、グループごとに呼び出す	◇保護者を確認して子どもを帰すと共に、伝達事項のある保護者には伝え忘れのないように気をつける

〔週日案〕

資料７

組・週日案　　月　　日(月)　～　　月　　日(金)　　担任：

前週の子どもの姿： ※前の週の子どもの実態を記述する	今週のねらい： ※前の週の実態から、今週の活動を通して、子どものなかに育って欲しい「心情・意欲・態度」などを具体的に記述する

	日（月）	日（火）	日（水）	日（木）	日（金）
内容	※「ねらい」を達成するために体験して欲しい事柄や、活動を記述する				
環境	※活動が可能になるような環境の構成や、再構成を記述する				
幼児の活動	※前週の子どもの実態から捉えて計画した、具体的な幼児の活動を記述する				
指導ポイント	※・活動を展開していく時の具体な指導方法 ・一人一人の子どもに対する教師の働きかけ方 ・指導に当たって留意し、配慮していくこと　　などを記述する				
反省評価	※その日の反省および評価を記述する。				